

平成 26 (2014) 年本州太平洋サケ 4 年魚の回帰状況 (第 4 報: 12 月 31 日現在)

独立行政法人水産総合研究センター
東北区水産研究所 沿岸漁業資源研究センター

- ・ 12 月 31 日現在までの本州太平洋側の地域のサケ来遊数は前年並みであるが、平年を下回り、河川捕獲数は前年、平年ともに下回る
- ・ 岩手県の安家川、田老川、津軽石川、片岸川、盛川、宮城県の気仙沼大川では 4 年魚の河川捕獲数が最近年 (2006 (平成 18) 年以降) で最も少ない
- ・ 田老川を除く上記の河川では、河川捕獲数 (累計) の 50%以上を 5 年魚が占める

1. サケ来遊概況

12 月 31 日現在の本州太平洋 (竜飛岬から東の青森県～茨城県) 側の地域におけるサケ来遊数 (沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計) は 834 万尾^{※1} (前年同期: 94%) と前年並みですが、平年 (1989 (平成元) ~2013 (平成 25) 年の平均値、1,429 万尾) 同期との比較では 58%という状況です (図 1)。河川捕獲数は 74 万尾 (前年同期: 82%) と前年を下回っており、平年同期 (130 万尾) との比較では 57%となっています。

※1: 青森県、岩手県、宮城県の河川捕獲数および沿岸漁獲数 (12 月 31 日現在)、茨城県河川捕獲数 (11 月 30 日現在) の累計値

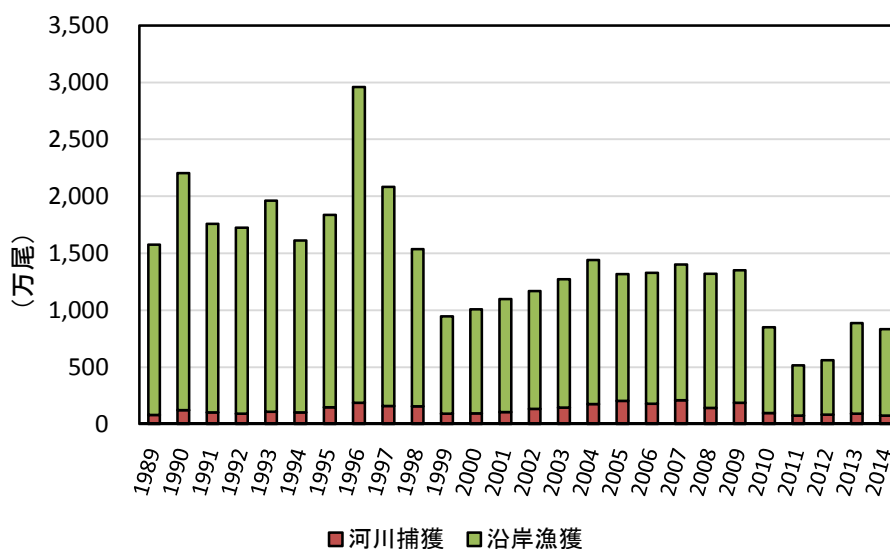


図 1. 8 月 1 日～12 月 31 日までの本州太平洋側におけるサケ来遊数 (累計値). 2014 年は速報値.

2. 年齢別河川捕獲数と 4 年魚の河川捕獲状況

年齢査定の終了している青森県、岩手県、宮城県の河川について、年齢別の河川捕獲数および 4 年魚の河川捕獲状況を河川別に示します。

青森県

【川内川】 12月20日現在

河川捕獲数および4年魚の累計河川捕獲数は、いずれも2006（平成18）年以降の変動の範囲内にあります（図2）。時期別に見ると、調査期間を通じて4年魚および5年魚は同様の増減パターンで推移しています（図3）。4年魚の過去5カ年との比較では、いずれの時期においても変動の範囲内となっており、4年魚の減少は認められません（図4）。

【奥入瀬川】 12月20日現在

河川捕獲数は2006（平成18）年以降で2008年に次いで2番目に少なく、4年魚の累計河川捕獲数は2013年に次いで2番目に少ない状況です（図2）。時期別に見ると、4年魚は12月上旬に減少、5年魚は調査期間を通じて増加しています。また、12月上旬以降は、3年魚が主体となっているのが特徴的です（図3）。4年魚の過去5カ年との比較では、12月上旬、中旬において最も少なくなっています（図4）。

【新井田川】 12月20日現在

河川捕獲数および4年魚の累計河川捕獲数は、いずれも2006（平成18）年以降の変動の範囲内にあります（図2）。時期別に見ると、10月下旬および11月上旬で4年魚が少なくなっていますが、11月中旬以降はいずれの旬も4年魚が主体となっています（図3）。4年魚の過去5カ年との比較では、10月下旬、11月上旬において最も少なくなっていますが、それ以外の時期では変動の範囲内となっています（図4）。

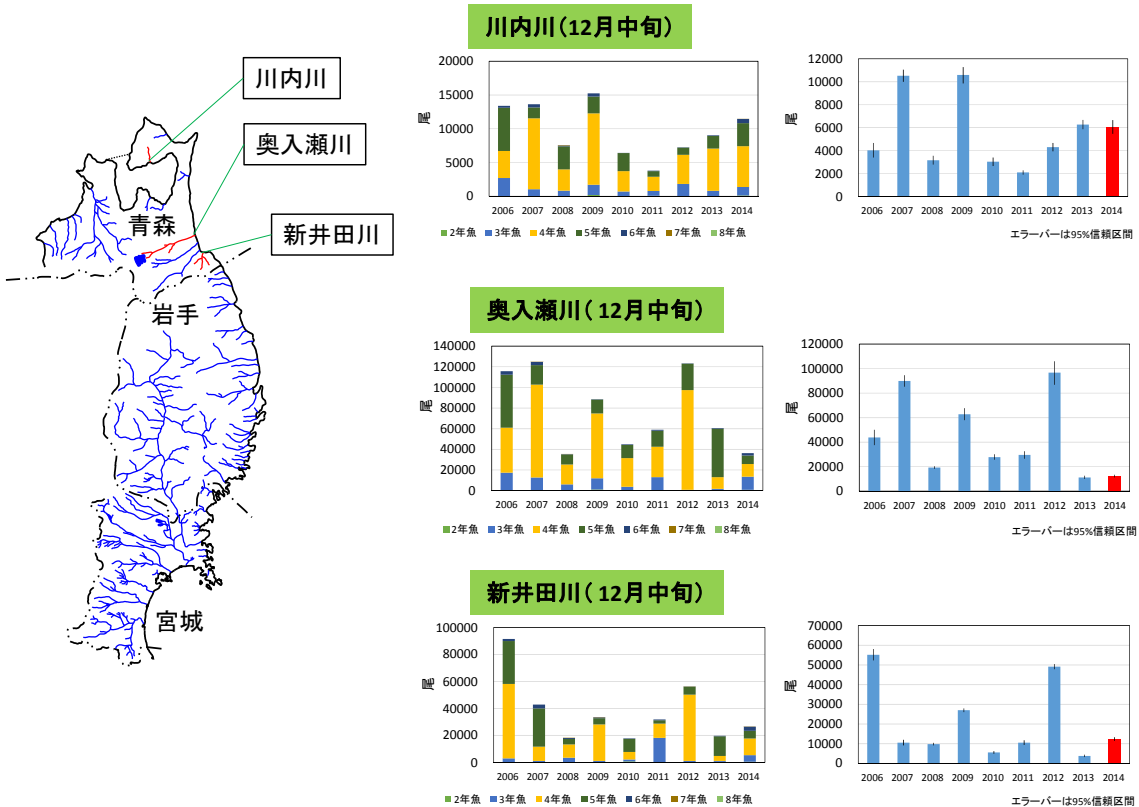


図2. 年齢別の河川捕獲数（左側のグラフ）および4年魚の河川捕獲数（右側のグラフ）。いずれのグラフも2014年と同一旬における各年の累計値を比較。

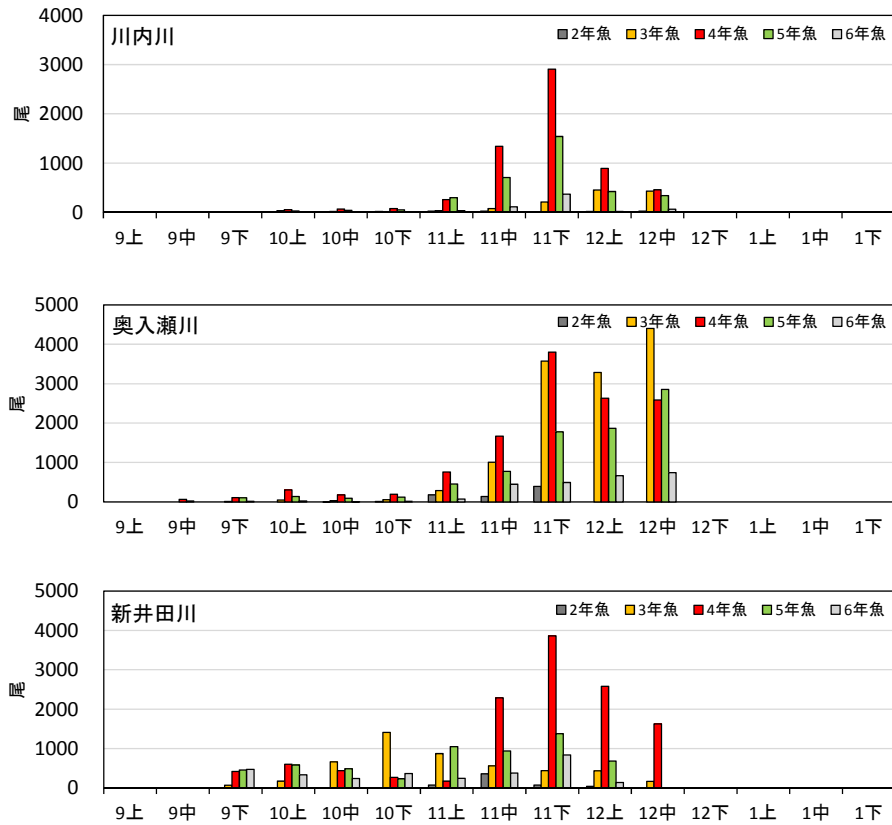


図 3. 2014 年の時期別・年齢別河川捕獲数.

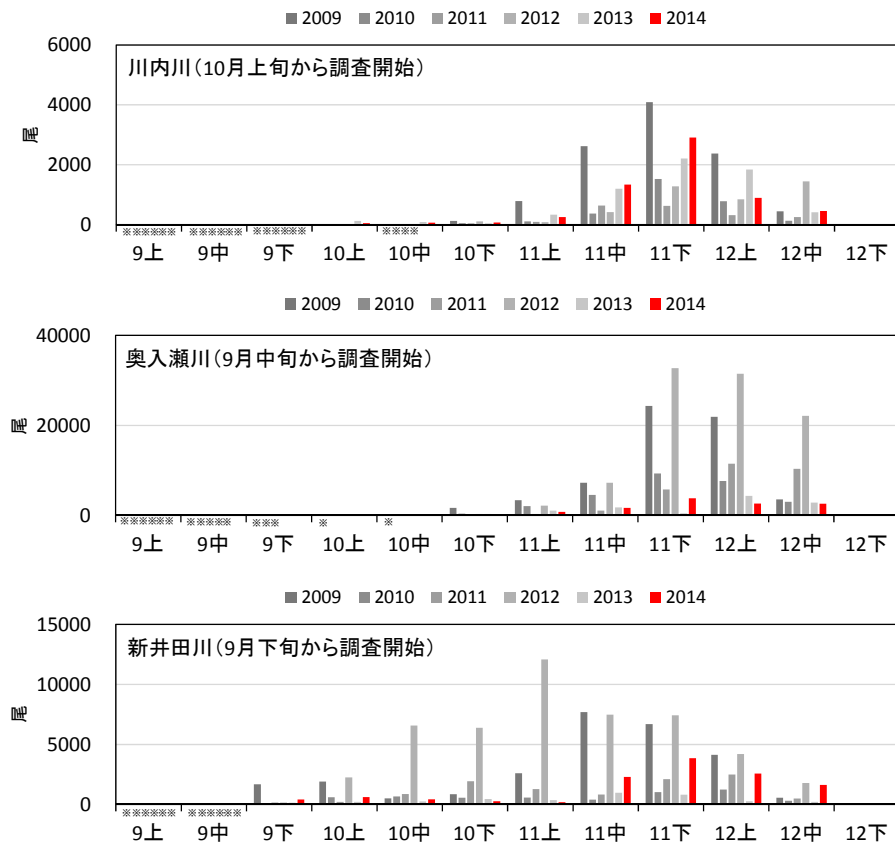


図 4. 4 年魚の時期別河川捕獲数 (過去 5 カ年との比較).

岩手県

【安家川】12月31日現在

河川捕獲数および4年魚の累計河川捕獲数は、2006（平成18）年以降で最も少ない状況です（図5）。時期別に見ると、10月以降4年魚は減少し、10月中旬以降は5年魚が主体となっています（図6）。4年魚の過去5カ年との比較では10月中旬以降、最も少なくなっています。特に12月中旬以降、4年魚はほとんど出現していません（図7）。

【田老川】12月10日現在

河川捕獲数および4年魚の累計河川捕獲数は、2006（平成18）年以降で最も少ない状況です（図5）。時期別に見ると、11月中旬に4年魚が減少、それ以降は5年魚が主体となっています（図6）。4年魚の過去5カ年との比較では、11月中旬以降、最も少なくなっています（図7）。

【津軽石川】12月31日現在

河川捕獲数は2006（平成18）年以降の変動の範囲内にありますが、4年魚の累計河川捕獲数は最も少ない状況です（図5）。時期別に見ると、4年魚は調査期間を通じて変化が小さく、11月中旬以降は5年魚が主体となっています（図6）。4年魚の過去5カ年との比較では、11月中旬以降、最も少なくなっています（図7）。

【織笠川】12月31日現在

河川捕獲数および4年魚の累計河川捕獲数は、いずれも2006（平成18）年以降の変動の範囲内にあります（図5）。時期別に見ると、調査期間を通じて4年魚および5年魚は同様の増減パターンで推移しています（図6）。4年魚の過去5カ年との比較では、いずれの時期においても変動の範囲内となっています（図7）。

【片岸川】12月31日現在

河川捕獲数は2006（平成18）年以降の変動の範囲内にありますが、4年魚の累計河川捕獲数は最も少ない状況です（図5）。時期別に見ると、4年魚は調査期間を通じて変化が小さく、10月下旬以降は5年魚が主体となっています（図6）。4年魚の過去5カ年との比較では、10月中旬以降、最も少なくなっています（図7）。

【盛川】12月31日現在

河川捕獲数は2006（平成18）年以降の変動の範囲内にありますが、4年魚の累計河川捕獲数は最も少ない状況です（図5）。時期別に見ると、4年魚は10月下旬から減少し、11月中旬以降はほとんど出現しておらず、調査期間を通じて5年魚が主体となっています（図6）。4年魚の過去5カ年との比較では、10月下旬以降、全ての旬で最も少なくなっています。（図7）。

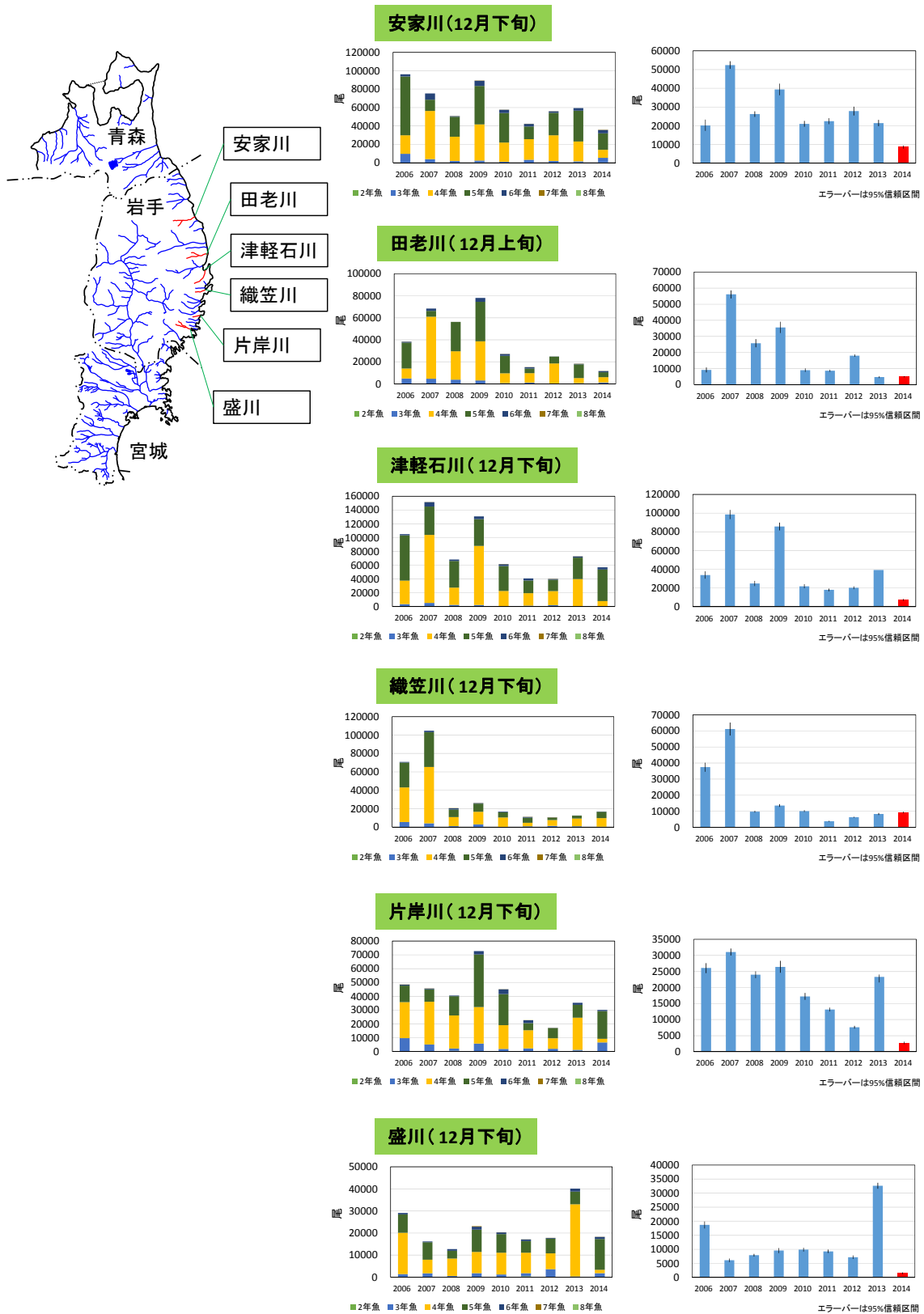


図5. 年齢別の河川捕獲数（左側のグラフ）および4年魚の河川捕獲数（右側のグラフ）. いずれのグラフも2014年と同一旬における各年の累計値を比較.

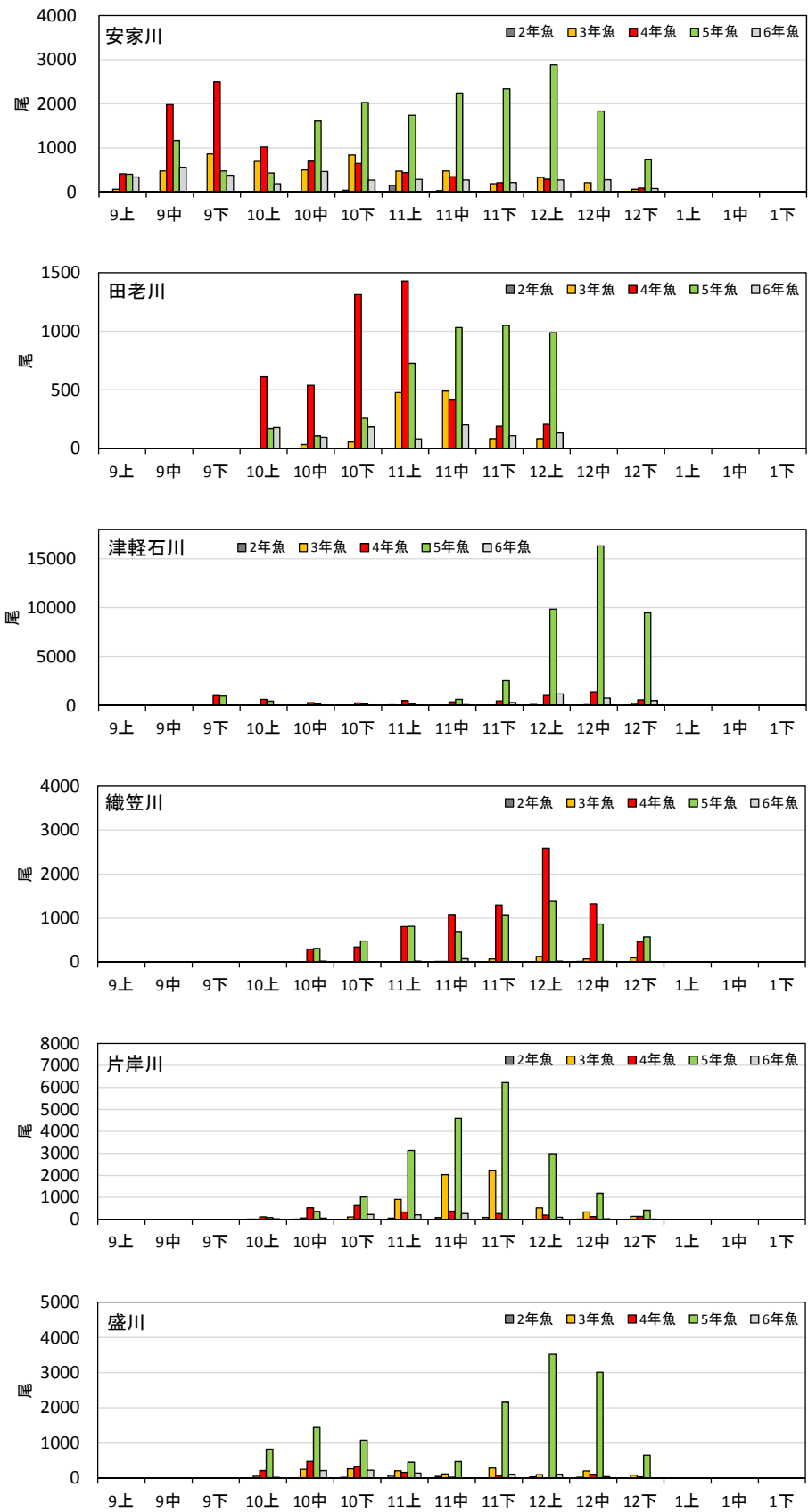


図 6. 時期別・年齢別河川捕獲数.

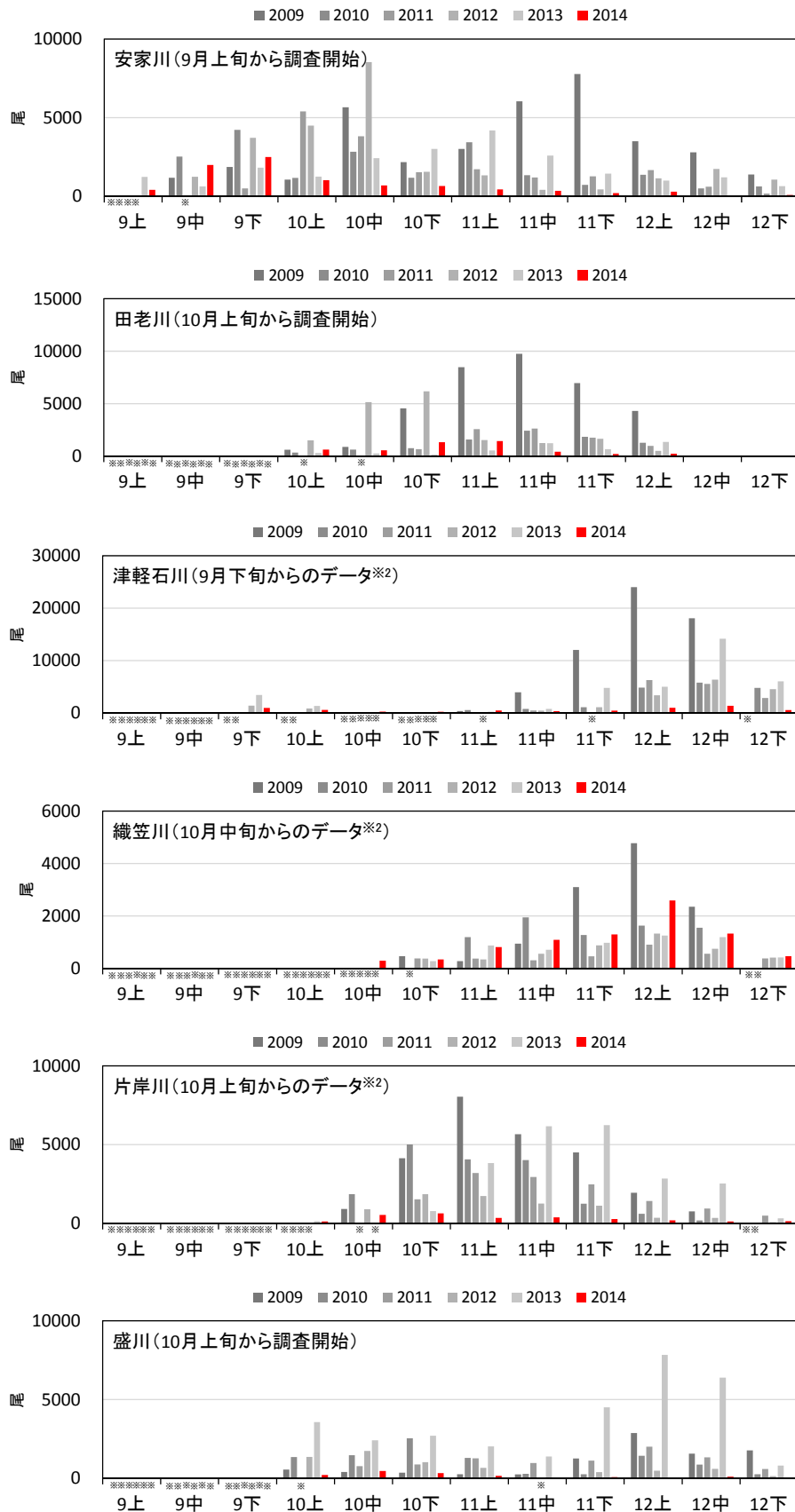


図7. 4年魚の時期別河川捕獲数（過去5カ年との比較）. ※は調査を実施していないことを示す.
 ※2: 岩手県水産技術センター提供のモニタリングデータのみを使用しているため、同センターが定期的に公表する「秋サケ回帰情報」とは調査開始時期等が若干異なる.

宮城県

【気仙沼大川】 12月31日現在

河川捕獲数は2006（平成18）年以降の変動の範囲内ですが、4年魚の累計河川捕獲数は最も少ない状況です（図8）。時期別に見ると、4年魚および5年魚の増減パターンは類似するものの、調査期間を通じて4年魚は少なく、5年魚が主体となっています。特に12月上旬以降、4年魚はほとんど出現していません（図9）。4年魚の過去5カ年との比較では、10月上～下旬、12月上～下旬において、最も少なくなっています（図10）。

【北上川】 11月20日現在（第3報と同じ内容）

河川捕獲数は2006（平成18）年以降で最も少なく、4年魚の累計河川捕獲数は2番目に少ない状況です（図8）。時期別に見ると、調査期間を通じて4年魚および5年魚は、ほぼ同様の尾数で推移しています（図9）。4年魚の過去5カ年との比較では、10月下旬以降、4年魚が最も少なくなっています（図10）。

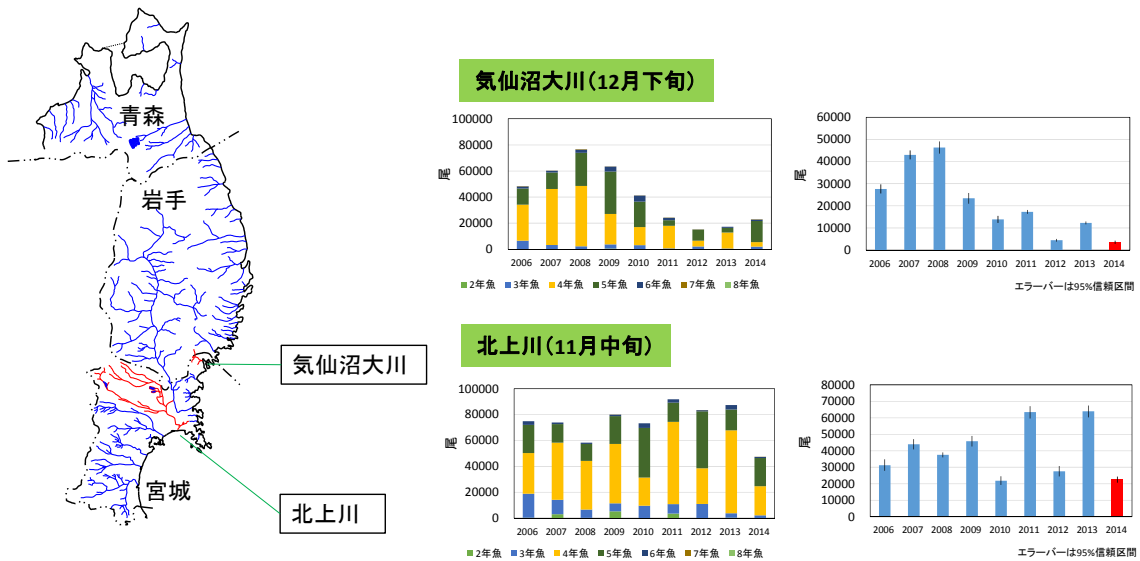


図8. 年齢別の河川捕獲数（左側のグラフ）および4年魚の河川捕獲数（右側のグラフ）。いずれのグラフも2014年と同一旬における各年の累計値を比較。

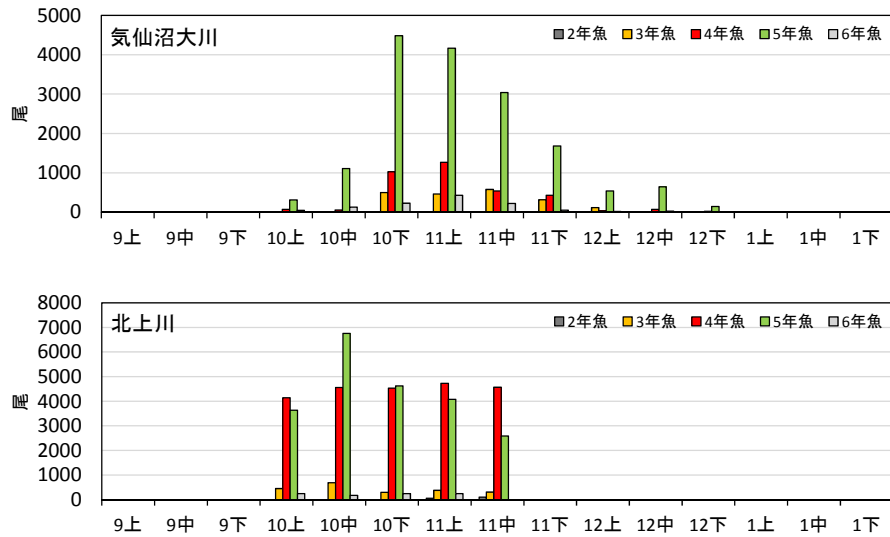


図 9. 時期別・年齢別河川捕獲数.

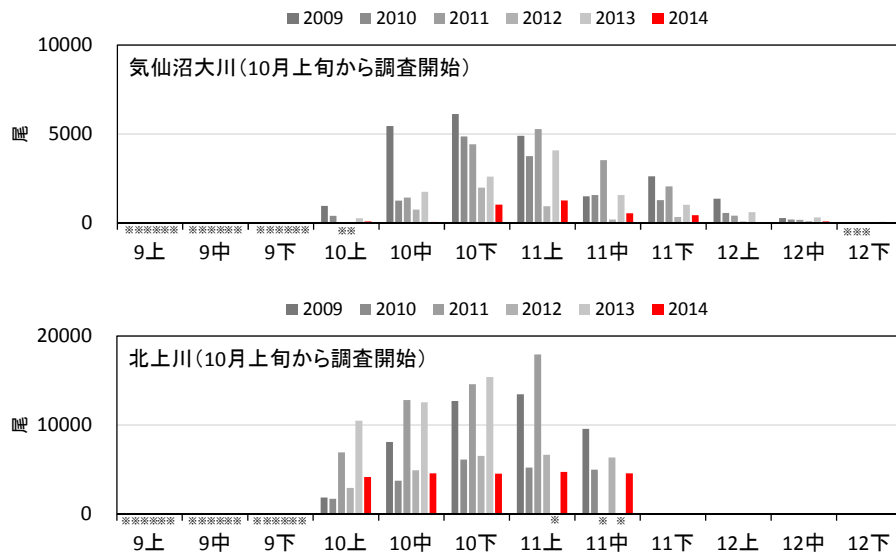


図 10. 4年魚の時期別河川捕獲数 (過去5カ年との比較). ※は調査を実施していないことを示す.